

東海カード会員だより

2022年8月20日発行

東海大学オフィシャルサイトより抜粋

「第13回南沢ラベンダーまつり」を3年ぶりに開催しました

札幌キャンパスで7月17日に、「第13回南沢ラベンダーまつり」を開催しました。本キャンパスのある札幌市南区の南沢地区が日本におけるラベンダー商用栽培発祥の地であることから、本学ではラベンダーを通じて地域とのつながりを深めようと1666㎡の畑で2630株を栽培しています。2006年度から始まったラベンダーまつりは、新型コロナウイルス感染症の影響で過去2年間は中止となり、今年度は3年ぶりの開催となりました。本キャンパスで活動する東海大学チューデントアチーブメントセンター・札幌ボランティアプロジェクトが運営を担当し、企画立案から地域住民らとの調整、運営までを学生たちが担いました。

当日はあいにくの雨となりましたが、プロジェクトや部活動の学生たちがかき氷や焼き鳥、焼きそばの屋台を設置。500名以上の市民らが来場しました。北海道に生息する魚類を箱眼鏡で観察する「体験型水槽」を展示した水族生物展示研究同好会の竹下佳吾さん（生物学部海洋生物科学科2年次生）は、「ボルネオ・プレコなど目で見て面白い種類を選び、手を動かして魚を楽しんでもらう企画を考えました。子どもたちにも喜んでもらえてよかった」と話しました。4月に発足した東海大学北海道地域研究センターでは、河合久仁子教授が中心となって「ヒグマとの共生を考える―意外と身近なヒグマを知ろう―」をテーマにパネル展示。等身大パネルや足形、毛皮などを紹介し、「キャンパス周辺に設置したカメラにもヒグマは映っていますが、人を避けて生活しているので危険レベルには達していません。ただ恐れるのではなく、見通しの悪い場所の草刈りや、ゴミ捨ての方法を工夫するなど、ヒグマについて理解して対応することが大切」と話しました。

国際文化学部デザイン文化学科の中尾紀行教授と笹川寛司准教授が担当する「デザインプロジェクト」の授業を履修している学生たちは、木や皮を使った作品を販売。マグネットで取り付けられるL字型の飾り棚を制作した寺嶋未佑さん（3年次生）は、「デザインから制作、展示、販売まですべて自分の手で行うのは初めての経験でしたが、説明を聞いたお客さんが笑顔で購入してくれたときは涙が出そうになるぐらいうれしかった」とコメント。「YOSAKOI 演舞」を披露した学生サークル「東海大学～祭屋～」代表の大島海杜さん（生物学部生物学科3年次生）は、「3年ぶりにキャンパス内で演舞できる場をいただいたので、雨の中でも精いっぱい踊ろうと臨みました。4年次生が企画した『想祈巡（しきめぐる）』はコロナ禍で発表の場がなかったのですが、やっとお披露目できてよかった」と話しました。

ボランティアプロジェクトのリーダーを務める吉田遥さん（国際文化学部デザイン文化学科3年次生）は、「過去2年間はコロナの影響でキャンパスにもほとんど来られず、今年度は対面授業も増えてきましたが、こうしてラベンダーまつりを開催できてやっとキャンパスライフが戻ってきたと感じています。3年前を知る4年次生や職員の方々に当時の話を聞き、アドバイスや手助けをしてもらいながら形にすることができました」と充実の表情。高橋拓輝さん（生物学部生物学科1年次生）は、「準備は大変でしたが、子どもも大人も楽しんでくれて、開催してよかったと感じました。この経験を来年以降につなげていきたい」と話していました。

「熊本地域プロデュースプロジェクト」が「今年の夏は阿蘇で竹モルックだ！」を開催しました

熊本校舎で活動するチューデントアチーブメントセンター・ユニークプロジェクトの「熊本地域プロデュースプロジェクト」が7月10日に、南阿蘇村の道

(裏面へ続く)

の駅「あそ望の郷くぎの」で「今年の夏は阿蘇で竹モルックだ！」を開催しました。「地域の魅力を再発見、再発信」することをテーマに活動している本プロジェクトでは、コロナ禍以前はあそ望の郷で「世界最大級のカルデアで！日本一長い流しそばをしませんか？」を開催していましたが、過去2年間は活動できずにいました。今年度は衛生面なども考慮し、フィンランドの伝統的なゲームをもとに開発されたモルックを通じた地域活性化イベントを企画しました。数字の書かれた木製のピン（スキttl）に木製の棒（モルック）を投げて点数を競うゲームで、2チームで交互にモルックを投げ、1本倒すと書かれた数字が、2本以上だと倒した本数がポイントとなり、50点先取したチームの勝利となります。今回は学生たちが村内の竹林から竹を切り出し、スキttlとモルックを自作するなど準備を進めてきました。

当日は、親子連れや卒業生らが多数訪れ、受付では検温や手指消毒などの新型コロナウイルス感染症対策を徹底。学生たちが丁寧にルールを説明したり、実演したりしながら交流を深めたほか、会場には竹を使ったフォトスポットも用意しました。リーダーの田中健翔さん（経営学部経営学科3年次生）は、「流しそばに使っていた竹を活用したイベントができないかとメンバーで話し合い、お笑いコンビ『さらば青春の光』の森田哲矢さんがモルックの日本代表として世界大会に出場するなど、近年日本でも注目を集めていることから今回の企画を考えました。子どもたちも楽しんでくれてよかった」とコメント。石橋玄さん（同）は、「テレビなどでモルックを見て興味があり、阿蘇の自然の中で子どもたちと一緒に楽しめたらいいのではと考え、メンバーに提案しました。先輩方が長年築いてきた南阿蘇の皆さんとのつながりや伝統を残したいと、引退した4年次生にも手伝ってもらいながら準備してきました。メンバーは県外出身学生が多いので、今後もまだ知られていない熊本の魅力を自分たちも体験しながら発信していきたい」と話していました。

東海大学ネットをご活用ください

・MicrosoftOffice365 システムによる生涯メールアドレスの利用
(tokai-u.jpのドメイン) 詳細は以下URLをご覧ください。
<https://www.kouyu.tokai.ac.jp/dousoukai/service/net/>

インターネットホームページについて

URL : <https://www.kouyu.tokai.ac.jp/> (校友会)
<https://www.kouyu.tokai.ac.jp/kouenkai/> (後援会)
<https://www.kouyu.tokai.ac.jp/dousoukai/> (同窓会)

校友会・後援会・同窓会ではホームページを開設しております。会員の皆様からの情報をもとに内容を充実させていきたいと考えておりますので、ご意見・ご希望をお寄せ下さい。事務局までお気軽にお願いいたします。

東海大学学園校友会（校友会・白鷗会・同窓会）事務局
学校法人東海大学学園事務センター（学園校友ユニット）
〒151-8677 渋谷区富ヶ谷 2-10-2 TEL 03-3467-2211（代表）
E-mail koyukai@tokai.ac.jp

東海大学後援会事務局
東海大学キャンパスサポートオフィス
〒259-1252 平塚市北金目 4-1-1 TEL 0463-58-1211（代表）
E-Mail koyu@tsc.u-tokai.ac.jp